

〔新刊紹介〕

Meteorological Office:

Handbook of Aviation Meteorology

London Her Majesty's Stationery Office £ 2.10

この本は中級および上級のパイロットや航空士のために書かれたものだというのが序文に書いてあるが、気象の専門家が読んでも決して見劣りがしない。これだけの知識をもったパイロットや航空士が日々の気象現象に直面していたら航空気象台の予報官は彼等を指導してゆくのにはさぞ大変なことだろうと思う。また、反面ではさぞかし充実した仕事ができるだろうとも思う。私は1960年に書かれた初版は読んでないが、可成の部分が書き直されているとのことである。

構成は Part I では各気象要素や現象を解説し、それが航空機の運航にどのように影響しているかを、Part II

では観測のことを、Part III では総観気象を、Part IV では航空気象業務を、Part V では運航のための気候について述べている。全部で404頁で£2.10という安さである。安いからすすめるわけでないが十分に読みごたえのある本である。このような本が書けるのも英国では多くの航空機観測の実績があるからであろう。日本の気象庁でもこのような本ができたらとうらやましく思う。伊藤博編：航空気象（東京堂出版）よりも程度は落して書かれているが内容そのものは新しい成果も含まれている。なお航空にたずさわらない一般の予報関係者にも参考になる。

(中山 章)